

淑徳大学アーカイブズ・ニュース

Vol.31

2026.7.7

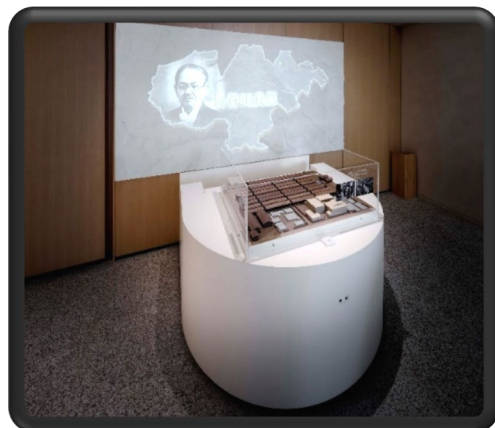


Shukutoku University Archives

<https://www.shukutoku.ac.jp/university/facilities/archives/>

目次

大乘淑徳学園長谷川良信記念館 展示室	1
学祖に迫る その8	2
表紙の写真について／アーカイブズの活動紹介	3
特別展示紹介	4
アーカイブズ力をつける その9	5
書籍紹介	7
アーカイブズ事務室だより／ご協力のお願い／編集後記	8



学祖に迫る その8

里見達人先生からみた学祖像

淑徳大学千葉キャンパスで1年生向けに行われた「長谷川良信の思想と生涯」の講義の記録から、このコーナーを構成しています。「学祖に迫る」第8回は、里見達人先生(元大乘淑徳学園常務理事、名誉顧問)のご講義内容「人間長谷川良信先生」から見える学祖像についてです。



里見先生のお父様(里見達雄先生)は、良信先生と「無二の親友」でした。

良信先生が達雄先生のお宅によくお越しになられていたことから、達人先生も、幼少の頃から良信先生のことをよく存じていました。

里見先生は、良信先生が、「生涯の仕事の集大成」として情熱を傾けて創立した淑徳大学にもよく伺っていました。正門(現在の南門)近くの胸像を見るたびに、良信先生のことを思い出していた、と学生に語られています。

良信先生の活躍した時期は、米騒動等の民衆暴動や、社会運動が巻き起こった変革期です。そうした中で若き仏教徒であった良信先生は、仏教の心をもって、社会改革をしようと強く心掛けたようです。

良信先生曰く、「葬式仏教は仏教の抜け殻」であるといい、葬式をしたり、お経を読むだけの伝統的な仏教だけではだめだ、という強い信念をもっていました。

そうした良信先生に、当時の仏教界の人びとは期待し、「マハヤナ学園」(1919年)を巣鴨の地に創立するに際して、資金提供を惜しまなかったといえます(その資金提供者の名簿は「勸進帳」という形でマハヤナ学園本部に残っています＝これは「マハヤナ学園事業資金

寄附芳名」という名称で、淑徳大学1号館4階の学祖展示室にも展示されています)。

こうして、多くの期待を受けたマハヤナ学園における「隣保事業」は、児童・老人・障がい者に対する慈善的なものとは趣が違いました。社会に開かれた地域福祉の先駆をなした事業として、大いに評価されるべきであると、里見先生は、学生に説明しています。

事業の多忙さから良信先生はマハヤナ学園の創立以前、体調を崩し、東京市養育院安房分院にて一時、療養生活を送ることにもなります。しかし、良信先生はただ、療養するだけではなく「働きながら、病気を治した」と語っておられたようです。

それを証明するエピソードとして、里見先生自身が16歳の頃に東京の病院に入院していた際、良信先生が見舞いに訪れ、「精神力が足りない」と叱られたこと、「自分は入院せず仕事をしながら病気を治した」と話されていた、ということを学生に紹介しました。

お金もないのに、外車に乗り、文字通り「火の車」となりながら、マハヤナ学園経営のためのお金を集めていたという良信先生。そうした行動等から見えてくるのは、「勇気と行動とロマン」の人ということであり、そのような面に自身も含め、多くの人びとは今でも魅了される、と最後に学生に語り、里見先生は締めくくられました。

(1999年5月18日の講演記録より)

里見達人先生は、令和8年2月18日に、102歳でご往生を遂げられました。里見先生の学祖を思われる心を、次世代に受け継いでいきたいと念じております。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

～表紙の写真について～

大乘淑徳学園長谷川良信記念館 展示室

2026年6月21日にグランドオープンを迎えた記念館の一階常設展示室の風景です。

展示は大きくわけて戦前・戦後、そして淑徳大学設立までの良信の活動を振り返るものとなっています。

戦前は、茨城での幼少期から、マハヤナ学園創立、そして戦時中、民間社会事業の組織化に尽力する様子を、パネルや関係資料で紹介しています。戦後は、校祖輪島聞声尼が創立した淑徳高等女学校の校長に就任、女子教育に力を入れ、国交回復のちにはブラジル開教に向かい「日伯寺」を創建、さらに大巖寺住職として淑徳大学を含む「文化苑」を周辺地域に形成していく過程を辿ります。

また、留岡幸助など同時代の社会事業家や良信の後継者の一人として草創期の大学を支えた福山政一氏の事績もあわせて紹介しています。

良信は、かつて「二百軒長屋」と呼ばれた貧困地域の一つ、巢鴨で住民とともに暮らし、そこにマハヤナ学園を創立しました。記念館はその跡地に建てられています。現在、同地は住宅街や商店街となり、かつての面影はありませんが、それらを歴史的な経過として振り返るために、来館者の理解を促進する長屋の模型や記録映像も配置しています。

その一つとして、長谷川匡俊館長自ら語られる父・良信についてのインタビュー映像も、展示の理解を促進するものとしてご覧いただきたいものです。巢鴨の地と良信をつなぐものの、ぜひ映像から感じ取っていただければと思います。

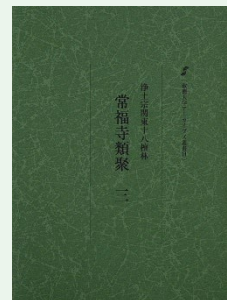
(写真提供:長谷川良信記念館)

アーカイブズの活動紹介

事務室は、千葉キャンパス1号館の校庭側3階です。学内の教職員、学園の皆様と連携し、学外の関係者にもご協力いただき業務を進めています。以下、アーカイブズ事務室の活動についてご紹介します。

アーカイブズ叢書の刊行

前号でもお伝えしておりました「関東十八檀林」の一つ、常福寺(茨城県那珂市)に所蔵されております歴代住職の日記(日鑑)を集成した類聚を『浄土宗関東十八檀林 常福寺類聚』として、刊行いたしました。



3巻目となる今回は、孝誉上人の記事を掲載し、石川達也氏、佐藤孝之氏による解説も付しました。

常福寺の小笠原純生ご住職、聖華副住職にもこの間、多大なるご高配を賜りました。

『常福寺類聚』は、これで完結となります。

宝物殿の開館協力

職務内容が共通することもあり、大巖寺宝物殿の開館日(毎月原則火・土曜各1回)に協力しています。

活動紹介

淑徳大学アーカイブズ・古文書ボランティア

古文書ボランティアは、毎月原則2回、金曜日に古文書の読解作業を行っています(現在は大念寺文書を読み進めています)。

見学

毎年、4・5月頃には、ゼミ、時には学年単位

で、展示室にご来室いただいておりますが、毎年必ず見学の予定をたてているゼミもあります。また夏の教職員の大巖寺研修やマハヤナ学園の大巖寺研修のときにも展示室を開室するほか、一般の方の見学も受け入れています。

見学は、4階の学祖展示室・3階の吉田久一展示室(常設展)・アーカイブズ特別展示室の3室を一緒にご見学いただくことをお勧めしています。ご見学のご希望は、事務室までご連絡ください。



ゼミの展示見学
(4階 学祖展示室)

特別展示紹介

特別展示室「大学60年、あの時を振り返る―主人公たちの青春―」
Part1

会期:2025年度…10月25日(土)・26日(日)
～12月12日(金)

2026年度…5月14日(木)～30日(土)

開室:10:30～16:30

場所:1号館3階 特別展示室

2025年度アーカイブズ特別展は大学創立60周年にあわせ、卒業生から寄贈された資料(特に写真資料)を中心に、あわせて大学の歴史を振り返る年表やパネルをもとに展示を

構成しました。

2024年度に企画、実施した特別展「メッセージの歴史」は学園や大学の広報誌を中心に展示を構成しました。これらの資料は、大学が公式に刊行しているもののため、また、近年はデジタル化の影響もあり、意図して残していく傾向にあるといえます。

その反面で学生の活動の痕跡を伝える資料は、心していなければ残りにくいといえます。学生にとっては、学生生活が日常であるからこそ、そうした面が強くなります。

しかしながら、学生たちこそがキャンパスの主人公であり、学生目線の資料を将来に引き継いでいくことで、大学の歴史の重要な証となるのではないのでしょうか。

本学は、千葉キャンパスが最も古い発祥の地でありますので、歴史が長いこともあり、今回は千葉キャンパスが展示の中心となります。今後、全キャンパスも展示の対象として準備して参ります。

展示をご覧になった皆様が、学生時代に思いをはせ、展示の内容を通じてアーカイブズの思想をご理解いただけましたら幸いです。

なお、特別展示室は、2026年7月現在は展示期間外となりますが、2026年9月11日までは、ご要望に応じて適宜、開室いたします。



アーカイブズ力^{りょく}をつける

その9

文書の破損、補修、そして資料レスキュー

清水 邦俊

今号では、文書の破損、補修、資料レスキューについてお話しします。

博物館や文書館など、公的な施設に入る前の資料は、作成からある程度の時間が経過すると、段ボール箱に入れて別室や、外部の倉庫に積み上げて保管されていくことがあります。そのような環境においては、アーカイブズを代表する紙資料(文書類)は、劣化や、破損する可能性が高くなります。主たる要因は4つあります。それらをご紹介します。

* * *

1つ目は、生物の被害によるものです。これは紙魚^{しめみ}やシバンムシ、ゴキブリ等が糊や紙の繊維を喰べることで欠損がおこり、文字の判読ができなくなったり、虫が喰ったことで紙が島状になり分離することや、ひどい資料だとレース状になるものもあります。

2026年4月のネットニュースに「ニューハクシミ」という外来種の害虫が日本国内に広く分布している記事が掲載されました。この虫は雌単独で子孫を生み出すため繁殖力が高いことも特徴の一つです。

またカビによる劣化もあります。カビの胞子は、紙の繊維に入り込むことで染みになり、そこから酸化して脆くなっていくことがあります。また、小動物の営巣による破損もあります。日常生活のなかではシバンムシはあまり目にすることはありませんが、ゴキブリは本棚の隙間や段ボール箱の裏側に潜っていて紙を喰べ

破損させます。

* * *

2つ目は環境による劣化です。この要因としては光と温湿度が挙げられます。太陽光や蛍光灯の光に長時間さらされると、紫外線により酸化が進み、紙が茶色く変色したり脆くなったりします。

文化庁によると、紙の保存に最適な温湿度は、温度22度±2度、湿度は50～60%となっています。湿度が65%を超えるとカビや害虫が発生しやすくなり、また、紙が湿気を吸収することで、紙同士が固着するので特に注意が必要です。

例を挙げると、新聞紙を紫外線の当たる場所に置いておくと茶色に変色したり、湿度が高い梅雨時には、コピーした紙同士がくっついて、印刷した文字が接地した紙に移ることがよくあります。

* * *

3つ目は化学的な要因です。

具体的には、大気中に含まれている汚染物質や、紙やインクの製造過程で使用された化学物質や不純物が経年によって化学反応がおき、それによ

って紙の強度が低下することが挙げられます。

前者に関しては、室内の空調設備を整えることで防ぐことができますが、後者は製造過程



写真1

の話なので利用者にしてみれば防ぎようはありません。

よくある例としては、戦時中や、終戦直後に製造された紙や、戦前に広く利用された万年筆等のインクです。

戦時中に製造された紙は、物資の不足から不純物を混ぜて製造していました。戦前のインクは、インク成分に鉄分が使用されており、そのインクで書くと時間の経過と共に文字の部分が錆びていき、穴が空いた状態になります。このような状態をインク焼けと言います(写真1)。

このように、紙やインクそのものが劣化しやすい場合は、早急にデジタル化する等、代替物を作成することになります。ほかにも前述のコピーした紙同士がくっつくことは、コピーのトナーやインクにも一因はあると考えられ、環境的なことと複合して起きると思われます。また、ファックス用紙が、時間が経つと変色することは、用紙の薬品によるものと思われます。

* * *

4つ目は物理的・人為的要因です。具体的な要因として利用時の取り扱い、災害、過去の不適切な補修の3つがあります。

利用時の取り扱いは度重なる閲覧による手垢の汚れや、無理に広げた際の破れ、折り目の摩耗等の破損です。

災害は、火災による焼失、洪水・雨漏り等による水に濡れた水損です。

過去の補修は、質の悪い糊または化学物質を含んだ糊を使用しての修理、セロテープを使った不適切な修理、これらは後年になってシミや劣化を引き起こします(写真2)。

また、輪ゴムで束ねておいた資料等が、数年後に輪ゴムが伸びたまま劣化して紙に付着

することはよくある光景です。

1つ目、2つ目は保存環境を整えることができます。

具体的にいうと温湿度はエアコンディショナーや加除湿機を用いるこ

とで対応できます。温湿度の変化はデータロガーという一定間隔で温湿度を計測する小型機器があるので、それで数値を計測すると便利です。また、資料を一点ごとに封筒、箱に入れることで光や埃等を防ぐことができます。

茶封筒や段ボール箱は、事務用のものだと保存には適していません。資料を劣化させる要因が少ない、白い弱アルカリ性の中性紙封筒や、箱が望ましいですが、まとまった数は一般では、なかなか手に入りません。

物理的・人為的要因は、災害以外は資料を取り扱う際の日頃の心掛け・不適切な修理を行わない等の注意でかなり被害を防ぐことができます。

これらの話は、また次回に続きます。

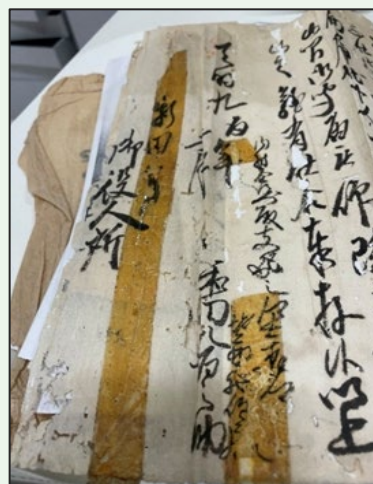


写真2

担当:清水邦俊

認証アーキビスト。淑徳大学アーカイズ叢書翻刻メンバー。

ブラジルでの日系人の個人資料整理などを経て、2025年より、秩父宮記念スポーツ博物館勤務。

書籍紹介

『アーキビスト 未来への履歴書』

「アーカイブズ」(ないし「アーカイブ」)には「記録」という意味があり、それらを、後世に残すために各所で尽力されている人びとのことを「アーキビスト」と呼びます。

博物館や資料館にいる学芸員とは何が違うのか、また、どういう職種なのかそもそもわからない、という方は多いと思われます。

そうした疑問をお持ちの方がたにぜひ、読んでほしい一冊がこちらの書籍です。

職場が違えば、そこで生じる記録も様々であり、残り方もさまざまです。そのため、アーキビストと一言にいても、その存在形態は多様です。

本書は、現在、アーキビストと呼ばれる方がたがなぜこの道を歩んだか、という来歴や、志望動機をまとめたものであり、文字通り「履歴書」です。

本書の構成は、以下の通りです(副題略)。

私がアーキビストになるまで 釜谷友梨子

日本でアーキビストを目指すということ 富田三紗子

地域アーカイブズとアーキビストの仕事 蓮沼素子

「信頼」を支える企業アーカイブズと企業アーキビスト 松崎裕子

企業資料と医療記録に関わってきて 清水ふさ子

歴史公文書を社会に開く 大月英雄

文書館専門職として 西向宏介

アーキビストの仕事と、たくさんの分かれ道 平野 泉

1957年から2007年までをアーカイブズで過ごして 水野 保

夜明け前のアーキビスト 定兼 学

私のアーカイブズ学事始め 松村光希子

一般行政職「アーキビスト」の一事例 太田富康

アーキビストとアーカイブズ学を学ぶこと 大木悠佑

国立大学アーカイブズにおけるアーキビスト 加藤 諭

アーカイブズ学教育・アーキビスト養成に携わる立場から 古賀 崇

大学に属するアーカイブズ、企業に属するアーカイブズ、また、一般行政職としてのアーキビストほか、目次をみただけでも、多様なアーカイブズ、アーキビストが現在、存在することがお分かりかと思います。

本書を読むと、アーキビストやアーカイブズが遠い世界のことでなく、身近な場所に存在し、関心さえあれば、多くの人びとに開かれている世界であることを教えてくれます。



(2025年11月発行 日本アーカイブズ学会編 岩田書院 定価1600円+税) (飯塚 彬)

アーカイブズ事務室だより

事務室活動記録

(2026年1月～2026年5月)

- 資料寄贈等(寄贈順):伊原浩昭氏、大学サービスラーニングセンター、磯岡哲也氏、内山勝司氏、学長室(東京キャンパス移管資料)
- 聞き取り協力者(五十音順):小野寺利幸氏、武田逸朗氏、西塚洋氏、長谷川匡俊氏、三上浩氏
- 資料貸出: 長谷川良信記念館／淑徳巣鴨中学高等学校
- 大巖寺宝物殿展示・開館支援:1/10(土)、20(火)、2/7(土)、17(火)、3/10(火)、28(土)、4/11(土)、25(土)、5/12(火)、23(土)
- 協力:長谷川良信記念館開館・展示支援
- 特別展:「大学60年、あの時を振り返る―主人公たちの青春―Part1」(後期:5/14～5/30)
- 刊行物:『常福寺類聚』三(3/30刊行)
- 視察:千葉県文書館(5/7)
- 古文書ボランティア 第243～251回
1/9(金)、2/6(金)、17(火)、3/13(金)、27(金)、4/10(金)、24(金)、5/15(金)、5/29(金)

〈ご協力のお願い〉

- *卒業生(OB・OG)のみなさまからのご寄贈をお待ちしております。また、近代福祉関係の資料も引き続き収集しております。ご寄贈を希望される場合は、アーカイブズ事務室へご相談ください。
- *学園や大学の各部門・部署で刊行された冊子などは、年史を編纂するときや、遡ってその時の状況を振り返るときに必ず必要になります。刊行されましたらば、ご寄贈をお願いします。

いたします。データでの提供もお受けいたします。

- *各部署で廃棄の状況が生じた書類等については、アーカイブズ事務室までご相談ください。

〈編集後記〉

日頃より、アーカイブズ事務室の活動にご協力いただきありがとうございます。

紙面は、元大乘淑徳学園常務理事、名誉顧問里見達人先生のご講義の記録からひもとく「学祖に迫る」、6月21日に一般公開された長谷川良信記念館の展示紹介、アーカイブズ事務室の情報発信、「アーカイブズ力をつける」(第9回)などで構成しております。

新コーナー「書籍紹介」は、今号より不定期に掲載いたします。アーカイブズの思想をご理解いただくための書籍を、皆様に親しみを持っていただけるようにご紹介できればと思っております。

今年度より、年2回の本来の発行形態を維持して参ります。引き続き、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。(大畠聖子・飯塚 彬)

〔編集協力:野中夏奈／株式会社 文学通信〕



バックナンバーはこちら

淑徳大学アーカイブズ・ニュース 第31号
令和8年(2026)7月7日 発行

淑徳大学アーカイブズ



〒260-8701

千葉市中央区大巖寺町200 1号館3階

TEL 043(265)7526<直通>

メールアドレス archives@soc.shukutoku.ac.jp